

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 奈良市立富雄北幼稚園

種 別 ☒ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒631-0074
奈良県奈良市三松一丁目5-6

E-mail kg-tomiokita@city.nara.lg.jp

Website _____

児童生徒数 男子 39名 女子 34名 合計 74名
 児童・生徒の年齢 4歳～6歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) はじめに

持続可能な社会を形成する担い手を育てることを目指し、就学前教育としての幼稚園での遊びを通して、実践してきた。「環境教育」「食育」「世界遺産学習」「国際理解」「伝統文化」について年間を通して取り組んだ。本年度もアシストプロジェクトを活用し、菜の花プロジェクトや食育として継続した栽培活動を通して環境教育を行い、収穫から再び栽培する中で、『地球のために自分たちでできることから始めよう』という思いが生まれるように考えた。栽培してきた小麦や米、野菜等の食物の生長も見ながら、うまく育てるためにはどうすればよいのかと共に、温暖化についても気付かせたいと思った。また、伝統文化を知り、茶道教室にも継続して参加する中で、抹茶がどのようにしてできるのかを知ること、興味関心を持って取り組めるのではないかと考えた。

(2) 一年間の主な活動内容

1. 食物が循環しているってどういうこと？

① 「食育」の取り組みを通しての気付き

・ 4月下旬

入園当初の年少4歳児の保育室前のプランターのスナップエンドウを収穫し、園で始めて食す。4歳児は緑の野菜嫌いの子供が多い中、みんなで食べる機会を持つことで、嫌がっていた子供も食べようとする姿が見られた。また、年長5歳児が昨年から育てていることを知り、買ったものではない、園で栽培されたものにも興味をもつことになった。

⇒「ちょっと食べてみようかなあ。」

「幼稚園で食べるもの作れるの？」

・ 5月中旬

4歳児は保育参観を活用して、親子でミニトマトの苗を植え、栽培を始める。日々「おおきなあれ、おいしくなあれ。」といいながら、水やりを行う。降園時には、保護者にも様子と一緒に見てもらうように促し、ミニトマトの世話を毎日続けた。時には、葉が下を向き、しおれかけている様子を見て、「どうしよう。」と不安になりながら、水を鉢からあふれるほどやったり、花が咲き、緑のミニトマトになると、「赤くなあれ。」と収穫を待ちわびたりする姿も見られた。また、わき目を取り、畑に再び植えておくと、新しい苗ができることを知った。

⇒「また、これからミニトマトができるの？」

また、5歳児は、各自で育てたい野菜（トマト・ナスビ・ピーマン・シシトウ）を個人鉢に植えたり、園内の畑やプランターと大きな植木鉢にさつ



まいも・とうもろこし・ポップコーンになるとうもろこし・キュウリ・落花生・パプリカ・オクラの苗を植えたりし、毎日、水やりや草引きの世話をしていた。しかし、とうもろこしがもう少しで太く大きくなるという頃、植木鉢で植えていたとうもろこしは、しおれかけ始めた。結局、ほとんど実のないとうもろこしを収穫した。子どもたちは、なぜしおれたのかを考えることになった。

⇒「水やりしていたのに、なぜ？」

「水やりだけではだめなのかなあ？」

⇒「暑い日が多かったから？」⇒「病気になったのかな？」

⇒「畑のポップコーンのとうもろこしは大丈夫なのに。」

・ 6月初旬

5歳児は畑の玉ねぎやじゃがいもを収穫、4歳児はカレーパーティの玉ねぎの皮むきを手伝い、5歳児のクッキングを見て、来年は自分たちがするのだと期待を持つことになった。

⇒「カレーパーティの材料は幼稚園にもあるんだね」

「5歳児さんが育ててくれていたんだ。」



・ 7月下旬

隣どうしの畑で育てていた、落花生とポップコーンのとうもろこしを見て、4歳児は「どこにできているの。」と興味津々、土の中や葉っぱのようなものの中にあることを知り、なり方の違いに気付いた。

⇒「もう食べられるの。ポップコーン早く食べたいなあ。」



・ 9月下旬

大根の種を植える。収穫の違いを見るために、4歳児は畑に5歳児は大きめの植木鉢に植えた。12月中旬、形も大きさもいろいろな大根を収穫することができた。畑の大根が少し大きくできていることに気付いた。

⇒「植木鉢でも大根できたんだ。」



②菜の花プロジェクト

・ 現5歳児が昨年9月に種をまいた菜の花を、5月に収穫、菜種油絞りをして、灯明の明かりになることや車を動かすこともできることを改めて知ることになった。

5歳児は、実際に種を足で踏んで集めていたり、4歳児も一緒に、とうみを使ってごみを取り、油を絞る様子を見たり、取り組んだりした。

4歳児は9月になると菜の花の種を畑に蒔きに行き、「おおきなあれ、たくさん種ができますように。」と、来年度に花が咲き、油が絞れることに気付いた。

⇒「来年の種を集めるところは、私たちがするんだなあ。」



③気付きからわかったこと

・ 4歳児は特に食物はすぐに食べられるのではなく、種や苗を植え、毎日水やりや肥料を入れるなどの世話をしていかないと、大きく生長してくれないことに気付くことになった。また、昨年の準備で、収穫していたいろいろな種や苗を植えておいて、やっと食物ができることに気付くことができ、循環に気付くきっかけになったと思われる。そこで自分たちが次へつないでいかなければいけないと知ることになり、菜の花も植え、来年には菜種油を絞ろうという思いを持つことになった。

・ 5歳児は、昨年には実際に取り組んでいなかったことに、自ら関わろうとする意欲が見られ、継続することの大切さに気付きかけていた。また、なぜしおれかけたり、枯れてしまったり、実がなかったのかを、考える機会になり、今年の気候に変化にも気付くことに繋がった。

2. 茶道教室での「お茶」の葉っぱってなに？

①お茶の生産者からのお話を聞く。

・ お茶は葉っぱからできることを知る。茶畑の写真を見る。

⇒「山にあるんだね。」

「お茶の葉っぱ、いっぱいあるよ。」

「機械で収穫するのだね。」

「あの機械は車なの？乗りたいなあ。」



・ 様々な種類のお茶を見たり、触ったりにおいのかいだりしてみる。

⇒「同じ葉っぱがいっぱい違うお茶になるのだなあ。」

「紅茶も知っているよ。」「飲んだことある。」

「みんな同じお茶ってこと？」「葉っぱの色が違うよ。」

・ 甜茶が抹茶になることを知る。

⇒「てんちゃって抹茶なの？」

・ 番茶や煎茶を飲む。

⇒「ちょっと苦いけど、おいしいなあ。」

「お弁当の時のお茶と一緒にや。」

「あっ、色が違うわ。」



②石臼で甜茶を挽いて、抹茶を作る。

・ 一人ずつ石臼を挽く。

⇒「どこから出てくるの。下から？」

「粉になってきた？」

「なかなか出てこない。」

「ちょっと粉でてきているよ。」

・ 出てきた抹茶を触ってみる。

⇒「茶道教室のお茶と一緒になの？」

「一緒にのにおいがするわ。」



③数日後、茶道教室に参加する。

・ 石臼で挽いた抹茶を使って、茶道をする。

⇒「この間、甜茶を挽いて抹茶にしたから、おいしいなあ。」

「苦くないよ。甘いなあ。」「よかった。抹茶つくったもん。」

④気付きからわかったこと

・実際のお茶に触れ、味わうことを通して、様々なお茶の種類があることを知り、お茶がどのようにしてできるのかに関心を持つことができた。なかでも、甜茶というお茶を挽いて粉にすることで、抹茶になることを知ったことで、茶道により興味を持って参加する姿が見られた。



・茶道教室で知っていたお茶（抹茶）が、様々なお茶と同じであることを知るとともに、お茶ができるまでには、長い時間と手間がかかり、簡単にはお茶ができないことや、いろいろな人のかかわりがあることを知ったことで、よりおいしいお茶が飲めることのうれしさを感じることに繋がった。

3. 反省・評価

・今年度は、子どもたちに「見て聞いて体験して、自分たちで できることから始めよう」というねらいを持って取り組んできた。子どもたちは栽培してきた野菜や菜の花等の食物の生長も見ながら、うまく育てるためにはどうすればいいのかと考え、継続した栽培活動を行ってきた。実践する中では、一人一人が自分自身で見たり、聞いたり触れたりという体験を通して、様々なことに気付くことになったが、こういった環境教育を行う中で、すべての子どもたちに温暖化について疑問や発見をするところまでにはいたらなかったと反省する。



・また、子どもたちの疑問であった「抹茶の粉って何？」ということには、実際の生産者の話を聞いて、お茶ができるまでの大変さも知り、時間をかけてつくられること、人がかかわってこそお茶になることなど、簡単には抹茶はできないことを知ることができ、身の回りのことに自ら関わっていくことが大切であると感じることができたと思われる。

(3) 今年度のまとめ

食育や栽培活動等の環境教育に取り組んできた一年であったが、今までも今後も継続してこそ、子どもたちには「自らできることから始めよう」とする気持ちを持たせることができるのではないかと考える。

これからも子どもたちと一緒に実践する中で、何かを発見したり、疑問をもったことを知ろうとしたりする力がつくような子どもを育てたいと思う。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☐ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）